

令和7年度第2回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会

1 日時

令和7年11月5日（水）13：30～14：30

2 場所

岩手県水産会館 5階 中会議室

3 出席委員（敬称略）

委員 大平 恭子

委員 工藤 昌代

委員 佐藤 愛理

委員 原 科 幸爾

委員長 吉野 英岐

4 開会

事務局が開会を宣言。

5 挨拶

- ・ 高橋農業振興課総括課長より、開会の挨拶。
- ・ 事務局が、委員9名のうち、半数以上の5名の出席があることから、委員会が成立することを報告。
- ・ 以降、吉野委員長が議長となり進行。

6 議事

(1) 令和7年度「いわて中山間賞」の選考について【資料1、2】

事務局より、資料1及び2に基づき「いわて中山間賞」の概要について説明。

① 土淵町農村活性化協議会（遠野市）の取組内容について【資料3-1】

事務局より、受賞候補団体の取組内容について資料3-1に基づき説明。

《意見等の内容》

〔大平委員〕 資料に記載の炭焼きツアーについて、現地調査では詳細を確認していないと思われる。補足情報があれば伺いたい。

〔事務局〕 炭焼きツアーについては当日詳細な説明はなかったが、資料3-1参考1に記載がある。生活支援の実証事業として炭焼き窯を設置し、山林を活用した炭づくりツアーを実施することでスモールビジネス化を目指している。地域の高齢者が指導や対応を担い、参加者との交流を通じた生きがいつくりや雇用創出を目的としている。

〔大平委員〕 技術を持つ地域人材を活用し、物づくりや関係人口の拡大につなげているという理解でよいか。規模は小さいが、一つの事業として成立していると考えてよいか。また、人材は1～2名程か。

〔事務局〕 そのとおり。関係人口の拡大や雇用創出を目的としている。人数については正確には把握していないが、多くはないと思われる。

〔吉野委員長〕 土淵町農村活性化協議会は、幅広く活動されている組織と感じた。NPO法人が事務局として参画し、支援を行うことで、地域を支えている。

本件についてはいわて中山間賞授与要領の6(1)から(3)までの選考基準に十分合致すると考える。他にご質問等が無ければ、土淵町農村活性化協議会については、令和7年度いわて中山間賞を授与することとして進めたいが、よろしいか。

- ・ 委員からの意見等を聴取した結果、土淵町農村活性化協議会（遠野市）へのいわて中山間賞の授与について異議なしとされた。

② 太田地区（二戸市）の取組内容について【資料3-2】

事務局より、受賞候補団体の取組内容について資料3-2に基づき説明。

《意見等の内容》

〔原科委員〕 若い方が活躍しているとのことだが、平均年齢はどの程度か。

〔事務局〕 青年部には9名が所属しており、平均年齢は40歳と伺っている。また、最年少は26歳とのこと。

〔原科委員〕 若い方が多い理由は何か。

〔事務局〕 太田地区環境保全組合は、中山間地域等直接支払制度の第4期対策から活動を続けているが、構成員の高齢化が進んだことを背景に、令和元年度に地域の若手農家を中心とした青年部を設立した。青年部は事業運営や農地集積の中心を担い、積極的に活動している。元々の組合員も青年部を非常に重宝し、意見を積極的に取り入れており、世代間の良好な循環が生まれている。

〔原科委員〕 上の世代が理解を示しているのは素晴らしい。

〔工藤委員〕 現地調査では、太田地区には消防団があり、若者が必ず加入する仕組みがあると伺った。その影響もあるのではないかと感じた。

〔佐藤委員〕 調書を拝見すると、若い方や女性が多い地域であることが分かる。

いわて生協に勤めている経験上、県産小麦や大豆の生産者を増やすことは容易ではないと感じている。葉たばこは多少品質に難があっても価格への影響が小さく、収益性が高い。そのため、米や大豆への転換は難しいと考えられるが、この地域が挑戦している点は非常に素晴らしい。

青年部9名は専業農家か兼業農家か。また畜産農家は含まれるのか。

〔事務局〕 青年部 9 名のうち畜産農家は 1 名。そのため、W C S の供給先については、地域内に 4 名程度存在する。なお、夏季は農業に従事し、冬季は除雪等の業務に従事して収入を得るなど、兼業的な働き方をしている方もいる。また、青年部のうち 1 名は市職員を務めていると伺っている。

〔佐藤委員〕 この地域の上の世代の方々は、青年部の活動に対して理解を示し、柔軟に対応している点が素晴らしい。

〔事務局〕 青年部の方々も、新しい取組を始める際には、上の世代に対して根拠を明確に示し、理解を得られるよう工夫しているとのこと。

〔佐藤委員〕 青年部の方は地元の方か。

〔事務局〕 外部出身者は 1 名であり、その他は地元の方であると伺っている。

〔工藤委員〕 資料 3-2 参考 1 に記載の「地域農社 J O B S」については、若者が主体的に、楽しみながら活動を進めている様子が印象的であった。また、早期に代替わりをされた方が、消防団の若手と太田地区環境保全組合をつなげる役割を果たしたとの話も伺っている。今後のさらなる発展に期待したい。

〔原科委員〕 色彩選別機とは米の選別を行う機械か。

〔事務局〕 そのとおり。斑点米等をセンサーで感知し、エアで除去する仕組みとなっている。太田地区では共同利用の「コイン色彩選別機」として導入しており、全国的にも珍しい取組。他県の組織からの紹介を受けて導入したと伺っている。

〔吉野委員長〕 便利な機械だが、「コイン色彩選別機」は見たことがない。

〔事務局〕 価格は約 100 万円と高額であるが、共同利用機械として地区に導入されている。支え合いの精神に基づく良い取組。

〔大平委員〕 太田地区は非常にエネルギーのある地域と感じた。地域の将来像を描きながら、着実に良いスタートを切っている。現在、太田地区環境保全組合の構成員には女性が少ない状況にあるが、今後は青年部世代や地域コミュニティにおける女性の活躍が重要になると考えられる。そのため、重点的な視点として取り組んでいただければと思う。葉たばこを基盤として次のステップへ進んでいる点も高く評価され、今後さらに発展が期待される。

〔吉野委員長〕 幅広い活動を展開しており、組織としても若返りを図っている様子。また、大型機械やコイン精米機、コイン色彩選別機を共同利用機械として導入し、地域全体で共有しながら取り組む姿勢が印象的であった。

〔事務局〕 特に W C S については専用コンバインが必要であり、個人導入は困難。共同利用が有効であり、上手く活用されている。

〔原科委員〕 飼料用米の作付状況について伺いたい。
〔事務局〕 W C S は 10ha、飼料用米は 9 ha 作付けされている。
〔吉野委員長〕 合計で 20ha 近く。なお、葉たばこの作付は減少傾向にあると伺っているが、主食用米の作付面積のおよそ半分程度が確保されている様子。

〔原科委員〕 集落営農ではなく、集落協定で共同利用機械を導入しているのか。
〔事務局〕 そのとおり。
〔吉野委員長〕 生産は各農家が個別に行い、機械については共同利用するという形である。

〔原科委員〕 直接支払制度を活用し、ここまでの取組を実現していることに大変感心した。

〔大平委員〕 太田地区の活動は非常に幅広く展開されている。環境保全を主要なテーマとし、農業分野にとどまらず、地域全体の取組としてのグランドデザインを整理しながら進めている点は高く評価できる。

〔吉野委員長〕 浄法寺のキャラクターを活用した干し芋の商品化など、多様なチャレンジが見られる。

〔大平委員〕 太田地区活性化施設に導入している乾燥機を用いて、干し芋を商品化したと聞いた。他にも様々な挑戦を行っているとのこと。

〔吉野委員長〕 太田地区については、共同利用機械の導入や新商品の開発など、幅広い取組を積極的に展開している。また、農用地の耕作も十分に行われている。

本件について、いわて中山間賞授与要領の 6 (1) から (3) までの選考基準に十分合致していると考えます。令和 7 年度いわて中山間賞を授与することとして進めたいが、よろしいか。

- ・ 委員からの意見等を聴取した結果、太田地区（二戸市）へのいわて中山間賞の授与について異議なしとされた。

③ 上村集落（八幡平市）の取組内容について【資料 3-3】

事務局より、受賞候補団体の取組内容について資料 3-3 に基づき説明。

《意見等の内容》

〔佐藤委員〕 戸数の少ない小規模な集落であり、45 歳未満の若者や女性もいない様子。今後は、何らかの形で若者や女性を取り込む必要があるのではないかと感じた。ひまわり迷路については、子供や保護者が訪れていると思われ、そこで交流が生まれている部分もあると考えられるが、今後の方向性はどのように予定しているのか。

また、直営工事について、水路等の補修を自分たちで行っているとのことだが、写真を拝見すると非常に本格的な工事を実施している様子。専門的な工事を担える人材がいるのか、また、安全面に問題はないのか懸念される。

〔事務局〕 この地域には若者がほとんどいないのが現状であるが、現在取り組んでいる方々が高齢でありながらも精力的に活動している。中山間地域等直接支払制度を活用し、水路や農道の草刈りなどを年に数回、共同取組活動として実施している。各戸から1名以上が参加しており、その中には女性や地域外に居住する構成員のご子息なども含まれており、共同活動としては一定の参加が確保されている。

工事については、現地での聞き取りにおいて、以前に工務店で勤務していた経験を持つ方がいると伺った。そのノウハウを活かし、可能な範囲で自分たちで施工を行うというスタンスで取り組んでいるとのことである。

〔佐藤委員〕 写真を拝見するとショベルカーで作業している様子が見られ、危険性が高いのではないかと懸念される。

〔事務局〕 当該集落には相当な技術を有する方がいる様子。現地を確認したところ、施工されている水路は素人レベルのものではなく、専門的な技術に基づいて整備されていた。

〔原科委員〕 小規模ながらも、第1期対策から地道に活動を継続しているとのこと、25年以上にわたり取り組んできたことになる。高齢化が進んでいると伺っているが、当初メンバーからの構成員の入れ替えはあったのか。また、これまで上手く継続してきた秘訣は何か。

〔事務局〕 当該集落では、年に数回の共同取組活動を実施し、各戸が個々に作付をしっかり行うことで耕作放棄地を出さないという強い信念を持っている。そばの作付やひまわり迷路の整備、水路や農道の維持管理などを通じて農地を守ってきた。現地調査の際にも、こうした信念が25年間継続してきた背景にあると感じられた。

また、資料3-3の集落等の概況に記載のとおり、令和5年度には上村集落だけでなく、隣接する田中や森子を含めて営農組合を設立している。生産が難しくなってきた農家があることは事実であるが、組合を設立し共同作業を進めるなど、時代の変化に応じて取組を発展させている。

〔原科委員〕 上村だけでなく、広域で組合化が進められているということで理解。

〔工藤委員〕 コンクリート水路の整備に際し、他の場所で使用された資材を再利用して経費を抑えていると伺った。また、先ほどの説明にあった3地区（上村・森子・田中）では、居住地と農地が別々に存在しているとのこと。

〔吉野委員長〕 農地は上村にあるが、居住地は全く別の場所にあり、構成員は上村に通って農地を維持しているとのこと。上村は「集落」と言っても住宅はなく、別の場所に住みながら農地を所有する人々の集まりである。

〔事務局〕 この地域は農地の維持に特化した集落である。なお、資料3-3にも記載されているとおり、コンクリート水路については圃場整備で使用された後に撤去された資材を有効活用する工夫がなされている。

〔大平委員〕 目的として農地を守ることに一点集中している集落であると改めて感じた。そのため、資料3-3に記載の「将来に向けたビジョン」は、現時点ではまだ描きづらいのではないかとと思われる。これまでの長年の実績に敬意を表したい。

〔吉野委員長〕 この集落は「とにかく植えることが大事であり、植えなければ始まらない」という考えを持っている。作物の種類は問わず、まず植えることを優先している。植えた後の利活用についてはあまり考えられておらず、ひまわりの種や油なども活用されていない様子。

〔事務局〕 何年か前には背の高いひまわりを植えたところ、子供の姿が見えなくなったため、後年には背丈の低いひまわりに変更したと伺っている。

〔吉野委員長〕 子供にちょうど良いサイズの小型ひまわりを植えることは良い取組であるが、基本的には「植えて終わり」という考え方であり、植えることで耕作放棄地を防ぐという発想に基づいている。

〔大平委員〕 交付金制度上、問題のない取組であるのか。

〔事務局〕 問題ない。耕作放棄地対策も主要な要素となっている。なお、ひまわりについては花が終わった後の利活用はされていないが、そばについては出荷が行われている。

〔原科委員〕 ひまわりについては景観作物として植えられているとのことで理解。

〔吉野委員長〕 上村集落については、信念を持つ方々が20戸未満という非常に小規模な体制ながら、第1期対策から長年にわたり活動を継続されている。今後については課題も多いと考えられるが、これまでの努力や「とにかく植える」という強い信念は高く評価できる。耕作放棄地の防止に力を注ぎ、水路や農道の整備も十分に行われている点が顕著である。以上を踏まえ、令和7年度いわて中山間賞を授与することとして進めたいと思うが、よろしいか。

- ・ 委員からの意見等を聴取した結果、上村集落（八幡平市）へのいわて中山間賞の授与について異議なしとされた。

(2) その他【資料4】

事務局から、資料4に基づき、令和8年度中山間地域等直接支払制度について情報提供。

7 閉会

事務局が閉会を宣言。